

1H鋼	吾	卷五	卷六	四〇	五一	一
攝氏八七五度油健 淬クローム一六・七 ○七%を含む	六〇	四一	九〇	三五	九六	三
	七〇	二九	四一	二〇	四〇五	一
	七七	三五	四七	三一	九七	一

第二表に掲ぐる試験成績に依りて、適當の處理後に於けるクローム含有量異なる鋼の物理的性質は正しき順序を保つことを直に知り得べく、僅に其元素を含むに過ぎざる鋼に在りても尙且良好の性質を現はせり。又此試験に依りて鋼のクローム含有量異なる結果は著しく其成績に差異なきのみならず若唯機械的性質のみを要求する場合に於ては、比較的少量の合金元素を添加せば所要の結果を求め得らるゝを示せり要するに表中クローム約三%を含む鋼は絶對に推奨せらるべきものとす。而して三%クローム鋼は一%のものに優りて有利なる所以は唯試験成績のみに據り其理を明白ならしむる能はざるを以て宜しく之を實際に徵すべきなり、何となれば茲に掲ぐる試験成績は可なり小片(徑一吋乃至八分の一吋)と成し熱處理を加へたる試験片より求め得たる數字を列舉せしものなればなり。依て若試験片の寸度を増正するときは大に全體の成績に關係し爲に之が機械的性質に影響を及ぼすことあるべしと雖、三%クローム鋼の一%のものに比較し遙に優良なる所以は1B及1Cの兩鋼を採りて通例の如く空氣に放冷するに當り容易に之を悟り得べし、即ち攝氏八六〇度より大氣中に放冷せしB鋼は平方吋に對し五三圧なるに反し、攝氏八三〇度より放冷せしC鋼は平方吋に付八〇圧の抗力を有すべし、故に此の結果に徴するも三%鋼は若干空氣健淬性を保ち、之が爲著しく急冷中に全體の分子移動に抗することを得るなり。

鋼に存するクローム量著しく増加し其の割合恰も無錫鋼に近似すれば、之が大氣中に於ける健淬性極めて多く現はる者とす、例令ばクローム約一二%を含む鋼は攝氏九〇〇度を超へたる溫度より空氣中に冷却すれば全く均齊に健淬せられ一平方吋に對し約一〇〇圧の最大應力を現はすべし。

既にクローム鋼に就き、全く單純に此種の鋼に熱處理を施すときは著しく高度の機械的性質を現はし、自動車製作に必要缺くべからざる諸性を發揮する所以を述べしを以て、次には構造材料以外の用途に供せらるるクローム鋼に就き述べんと欲す、而して以上説きたる種類に屬する二、三鋼の機械的性質に關しては本章附錄Aに詳細記述し置けり。(未完)

## 英國鐵工業狀況

在倫敦總領事 太 田 喜 平

### 一、鐵鋼業狀況

英國に於て鐵鋼業の經濟上重要な位置を占むることは其就労者が平時に於て二十五萬人、而して重要原料として鐵鋼を使用する工業就労者が全英國勞働者の二割二分以上を占め現に今日英國に於て失業給與金を受けつゝある約半數が炭業鐵鋼業土木工業器械工業及造船業勞働者なるを見るも如何に鐵鋼業が英國に於ける権要工業なるかを窺ふに足る、而して一九二一年に於ける鐵鋼業は嘗て見ざる衰頽を呈せり。

- 一、一九二一年に於ける英國銑鐵產出高は一八五〇年來の最少量を示せること
- 二、同年銑鐵產出高が例年遙に英國に及ばざりし佛蘭西の次位に落ちたること
- 三、例年銑鐵輸出國なりしもの逆轉して輸入國なりしことを見れば其一端を知るを得む乎

顧みれば一九二〇年に於ける鐵の需要多く從て各國年產額も相當多かりしが、

米國は爲替の關係運賃高率鐵工場に於ける罷工等の爲是亦產出量に尠からざる影響を蒙りたるも、要するに需要供給の超過せるが故に、鐵の値段昂騰して到底永續を許さざる程度に昂まり、同年秋に至りて反動起り佛自兩國の戰勝多少癒ゆるものあり是等產品市場に現はるゝに至りたるも、英國に於ては十月より炭業罷工勃發し越へて十二月既に不振の徵を崩し一般財界の金融逼迫と相俟て諸方面に於ける鐵鋼の需要著しく減退し、同年末に至りては一九二〇年中の反動急轉下鐵鋼の價格暴落越へて一九二一年初頭益々甚しく前年九月三百基を算せる鎔鑄爐も三月に至りて百九基に減じ、四月一日より炭業大罷工の勃發あり、三月に及び之が爲鐵鋼業は殆ど全部作業を中止するの已むなきに至り、偶々罷工の終了を告ぐるに至りたるも獨逸馬克白耳製法は益々下降し、爲替の關係上大陸諸國の產品英國市場を蠶食し而も是等は甚だ低廉なりしを以て結局英國當業者は價格を生活費以下に引下げ對抗するの外無かりしも元來斯の如きは窮屈の手段にして決して健全なる策にあらず、故に製造業者は鐵道運賃及燃料の値段低下を主張し十二月二十一日鐵道業者は一月一日より運賃約二割五分の低下を發表したるも未だ鐵鋼値段引下に伴ふ程度の引下を見ず、製鐵業者は更に一段の値下を要求し居れり、炭業罷工三箇月間英國に於ける銑鐵の產出量僅に七五、〇〇〇噸、鋼鐵八〇、〇〇〇噸、而も罷工終りを告げて以來六箇月間の銑鐵產出量は前年一九二〇年の同期に比し三分の一に過ぎず、又同期間鋼鐵の產出高前年の半ばに達せず、而して同年を通じ銑鐵產出量二、六一、四〇〇、〇〇〇噸にして一九二〇年の八、〇〇七、九〇〇噸に比すれば約五、四〇〇、〇〇〇噸の減退を示し銅の產出量三、六二四、八〇〇噸にして前年の九、〇五六、八〇〇噸に比すれば是亦約五、四二、二〇〇噸の減少を見、銑鐵の產出量未だ前例を見ざる衰勢を呈し、鋼生産に當り大部分は輸入銑鐵屑に依ると言ふに至りては衰頗の程度推して知るべし。

## 1、鑛石產出狀態

平素英國製鐵業者の一大問題は如何にして鑛石を獲得せむとするかにあり、蓋し國內鐵礦の產出は漸時減少するを以て、他に鐵礦の供給地を見出すに非ずむば畢竟當國製鐵工業は衰退の外なるべく、鐵礦の管理は即ち以て當國製鐵鋼業の死命を制するものなりとし、戰後英國鐵工業委員會に於ても盛に論及せられたる問題なりき。

同年英國に於ては鎔鑄爐の大部分は作業を中止し、一方國內需要を減少せる爲

外國より鑛石の輸出數量も從て例年の半ばに至らず、而も年々英國產鑛の約半に達するクリーヴランド鐵礦產地に於ける同年產出量は未だ嘗て見ざるの減退を示し殆ど九箇月間鐵坑に何等の活動無く昨年來僅に六坑の作業に從事したるのみ（常態に於て四十坑）而も労働者は作業の爲一周の勞動三、四日を超へず同地に於ける労働者八千餘名中七割五分は失業し殘餘は僅に短業に從事せるのみ故に一九二一年に於ける同地の產出額は漸く一、〇〇〇、〇〇噸に達したるや否や左に累年の產出量を表示し同年衰頗の狀を示せば左の如し（單位噸）。

年別	數量	年別	數量
一九〇三年	五、六七七、四九九	一九〇四年	五、七二六、九七六
一九〇五年	五、九三四、二八三	一九〇六年	六、一〇二、二三三
一九〇七年	六、二三〇、九八七	一九〇八年	六、二一六、七三三
一九〇九年	六、一九一、一七二	一九一〇年	六、一五二、八二三
一九一一	六、〇〇三、九五七	一九一二年	五、一五八、四四〇
一九一三年	五、九四〇、九六五	一九一四年	五、五七四、七八八
一九一五年	四、七四六、〇〇〇	一九一六年	四、三一五、七〇〇
一九一七年	四、八一〇、〇〇〇	一九一八年	四、五四四、一三五
一九一九年	三、七一二、六四八	一九二〇年	三、七三〇、〇〇〇

東北沿岸鎔鑄爐に於て使用する外國產鑛のクリーヴランド及鹽基性銑鐵と比較して多く使用せらるゝ内國產鑛に比し、ヘマタイト銑鐵產出量の割合遙に多きを以てなり、蓋し逐年衰乏に傾きつゝあるクリーヴランド產鑛石より銑鐵を产出せしむるより寧ろ外國輸入鑛石より豐富なるヘマタイトを精煉するの有利なるを經驗したればなり、尤も低廉なる燃料を豊富に獲得し得る場合はクリーヴランド鑛石を精煉すること強ち不利ならざるも、燃料其ものゝ價既に低からざるに鐵道運賃高率なるを以て常態に在りては外國輸入鑛石よりヘマタイトを產出せむとする者の増加したることは怪むに足らざるも、同年は外國產鑛石さへも取引尠からざる困難あり但し歐洲戰場より採收せる屑鐵の利用と炭業罷工による當國鐵工業の沈滯に外ならずと謂ふべし。

價格は一箇年を通じて下向一月初最上ルビオ鑛石每噸四十九志、運賃十七志、同月下旬四十志、運賃九志、二月下旬三十七志六片に低下し產業罷工につれ輸入を見ざる迄右の値段を以て繼續せるも其後に至りても尙貿易の見るべきもの無かりき。

## 2、銑鐵生産状態

ファクチャースの報告に依り、一九二一年英國に於ける銑鐵、鋼塊及鐵鑄物各月產出量を一九二〇年と比較すれば左の如し(単位噸)。

銑 鐵  
一九二〇年 一九二一年

同年中の產出量は前年一月に比し減少を見ざりき、試みに東北沿岸產地に於ける同年產出量は二五七、一〇〇噸にして一九二〇年の二一八、九〇〇噸に比すれば三八、二〇〇噸増加を見たるも、其後產出量漸時減少、六月下旬に至りて鎔鑄爐悉く閉鎖の已む無きに至れり炭業罷工三箇月中全英國を通じて銑鐵產出量は僅に七四、〇〇〇噸、七月中の產出量僅に一〇、二〇〇噸を算したるのみ、故に三箇月間の炭業罷工は銑鐵生産をして四箇月間皆無ならしめたりと云ふも過言に非ず、而して客年一箇年を通じて英國に於ける同產出總量約二、六一一、四〇〇噸にして、一九一三年の一〇、二六〇、〇〇〇噸に比すれば僅に四分の一に過ぎず、斯の如く產額激減の原因を需むれば即ち一は國內に於ける銑鐵の需要減少せること二は對外貿易殆ど皆無なりしこと、更に之を助成するものは外國製產品多量に輸入せられたる一事にして是等製產品は爲替の關係上價格甚だ低く(英國に於ける生産費よりも低廉なり)加ふるに歐洲戰爭に於ける屑鐵の利用は非常の額に達せることを看過すべからず、而して罷工終了後は數量甚だ多からざりしも猶產出量漸時増加の徵あり月を追ふて鎔鑄爐の再開を見年末多少鐵道運賃の低下ありし爲曩日に比すれば聊か改善を見るも猶英國品と外國品との値段の差甚しくクリーヴランド銑鐵生産費を以てすれば殆ど同額の大陸輸入製產品を求め得べく、爲に其對抗上各地製造業者は生産費節減に關し切に考慮せるところありしが如し、顧みれば一九二〇年末作業に從事せる鎔鑄爐二百七十四基(同年十月の頃は約三百基を數へたり)に減じ、當時既に衰退の徵あり、越へて一九二一年一月には二百三十二基に炭業罷工の前日即三月三十一日には百十六基に減じ愈々罷工勃發後數一鎔鑄爐の作業に從事せるものありたるのみなり、罷工漸く終りを告げたるも鎔鑄爐は容易に開始の運びに至らず、七月末漸く十五基作業を開始したるも渺からざる困難を見たるが如し、加ふるに國內に於ても英國產銑鐵の需要無く偶々之を要するものは價格の關係上大陸品を輸入使用し製鋼業者は多量の銑鐵を大陸より仰ぎたる事實なりき、八月末四十六基、九月六十八基、十月八十二基、十一月未八十五基、年末僅に九十基を算したるのみ。

	一九二〇年	一九二一年
一	六六五、〇〇〇	六四二、一〇〇
二	六四五、〇〇〇	四六三、六〇〇
三	六九九、〇〇〇	三八六、〇〇〇
四	七三九、〇〇〇	六〇、三〇〇
五	七二六、〇〇〇	一三、六〇〇
六	七五〇、六〇〇	八〇〇
七	七五二、四〇〇	一〇、二〇〇
八	七四一、〇〇〇	二三五、五〇〇
九	五三三、二〇〇	九四、二〇〇
十	四〇三、二〇〇	二七一、八〇〇
十一	六八二、五〇〇	二七五、〇〇〇
十二	*八〇〇七、九〇〇	二、六二一、四〇〇
計		
一		
二		
三		
四		
五		
六		
七		
八		
九		
十		
十一		
十二		
計		

備考 \*印は最近八、〇三四、七〇〇噸に改訂せられたるも各月產出量中何れの月に改訂を施したるや材料を缺く、次表一九二〇年中鋼塊及鋼鑄物

計も同様九、〇六七、三〇〇噸に改められたり。

鋼塊及鋼鑄物

一九二〇年 一九二一年

一	七五四、〇〇〇	四九三、四〇〇
二	七九八、〇〇〇	四八三、五〇〇
三	八四〇、〇〇〇	三五九、一〇〇

一	七〇、六〇〇	四三四、一〇〇
二	五、七〇〇	
三	二、七〇〇	
四	一一七、二〇〇	

一	七九四、〇〇〇	八四六、〇〇〇
二	八四五、〇〇〇	八四九、九〇〇
三	七八九、九〇〇	七〇九、二〇〇
四	七〇九、二〇〇	
五		
六		
七		
八		

九月	八八四、七〇〇	四二九、三〇〇	シヨフキールド 118,000
十月	五四四、三〇〇	四〇五、四〇〇	西沿岸 120,000
十一月	五〇五、一〇〇	四四二、八〇〇	計 105,000

十二月	九、〇五六、八〇〇	三、六二四、八〇〇	三八一、〇〇〇
-----	-----------	-----------	---------

計

由は觀之一九二〇年銑鐵產出高は各月平均約六六七、三〇〇噸なりしも一九二一年は約二一七、六〇〇噸銑鐵は一九二〇年各月平均產出量約七五四、七三〇噸一九二一年約三〇二、〇〇〇噸に激減せり。

一九二〇年及一九二一年の兩年當國に於ける銑鐵及鋼鐵の產出量を地方別に表示すれば左の如し(單位噸)。

	一九二〇年 全產出量 の割合		一九二一年 全產出量 の割合	
	北東沿岸	蘇格蘭	北東沿岸	蘇格蘭
ダービシア、レースターシュロツブシャ	1701,100	161	105,200	40.3
南ウエールス、モンマシヤ	852,000	7.1	105,400	4.1
シエフキールド	601,000	5.1	105,200	4.1
計	2,304,100	100.0	316,800	100.0
一九二〇年 全產出量 の割合	北東沿岸	蘇格蘭	北東沿岸	蘇格蘭
ダービシア、レースターシュロツブシャ	1,920,000	100.0	118,000	100.0
南ウエールス、モンマシヤ	1,024,000	56.2	120,000	52.2
シエフキールド	702,000	37.5	80,000	35.2
計	3,666,000	100.0	320,000	100.0

シヨフキールド 118,000	西沿岸 120,000	計 105,000
118,000	120,000	105,000
118,000	120,000	105,000

内國消費値段 118,000	輸出値段 120,000	105,000
118,000	120,000	105,000
118,000	120,000	105,000

シヨフキールド 118,000	西沿岸 120,000	計 105,000
118,000	120,000	105,000
118,000	120,000	105,000

一時戰爭の必要に應じて產額を昂めたる鋼鐵も環境諸種の惡材料の爲一九二〇年產額は例年に比し非常に激減を示したり、試に當國戰前戰後に於ける銑鐵及鋼鐵產額の產出率を比較せむに戰前に在りて銑鐵三噸に對し銑鐵四噸を產出せるの割合なりしが、今やは逆轉して銑鐵一噸に對して銑鐵四噸の割合となれり、蓋し銑鐵は鐵工業の基礎なるを以て假りに一九二一年は措て顧ずとするも當該工業の爲斯の如き傾向は決して喜ぶべき現象に非ずとせられたり、一九一七年は當國の勢なりとは云へ、昨年中當國製鋼工場の大部分は作業を中止し偶々作業に從事するものあるも甚だ間歇的に在サウスウェールス工場の如き年未多少の活氣を呈したるものなきに非ざりしも大體に於て萎靡衰頽東北沿岸工場の如きは最不振を極めたるものと謂ふべし。

### 3、銑鐵及鐵鋼製品と其市價

一九二一年初頭クリーヴランド銑鐵の値段は未だ曾て見ざる高値を呼べり、是より先き一九一九年四月三十日補助金及鐵工業管理制度廢止に至るまでは銑鐵の値段に付堅實なる管理行はれクリーヴランド・ヂー・エム・ビー第三號は毎噸九十五志を超ゆること能はざりしが補助金撤廢せらるゝや一躍百四十志に昂騰し、一九一年末には百六十志を稱ふるに至れり、爾來諸物價勞動貨銀の昂騰に連れ一九二〇年末クリーヴランド第三號内國市場の値段毎噸二百二十五志に昂騰し、恰も戰前値段の四倍半に達し、而して外國人が英國產銑鐵を要する場合には更に每噸二十六志六片の輸出打歩を附せらるゝに至れり、勿論斯る暴騰が健全なる市價に非ざりしは言ふを俟たざるところ一九二一年に至りて反動著しく市價亦甚しく暴落し、同年末に至りては管理値段に毎噸五志を超へたるのみにして消費者は出來得る限り購買を制限し、平素は一時に數百噸を購買するもの僅に日々の需要を充さむが爲十噸乃至二十噸を購ふに過ぎざりき、一九二一年初頭に於ける値段を示せば左の如し。

第一號クリーブランド・アイアン・ファンドリー	二三七・六	内國消費値段 118,000
二六〇・〇	輸出値段 120,000	

第三號クリーブランド・ジー・エム・ビー 第四號 フ ア ン ド リ 一 モ ー ル ド 、 フ ア ー ル 一月七日	二三五・〇 二二五・〇 二二五・〇 第一號十二志六片	二四七・六 二四七・六 二四七・六 一月七日	二四七・六 二四七・六 二四七・六 一月七日	二四七・六 二四七・六 二四七・六 一月七日	二四七・六 二四七・六 二四七・六 一月七日	二四七・六 二四七・六 二四七・六 一月七日	二四七・六 二四七・六 二四七・六 一月七日	二四七・六 二四七・六 二四七・六 一月七日	二四七・六 二四七・六 二四七・六 一月七日	二四七・六 二四七・六 二四七・六 一月七日	二四七・六 二四七・六 二四七・六 一月七日	
モ ー ル ド 、 フ ア ー ル 一志、第四號フォージ・モールド十二志六片、ファール十五志、エキスピート・ブ レミアムも第一號に每噸二十志フォージ・モールド・ファールに對し五志輕減せ られたり、一月二十五日に至りクリーブランド產一切輸出打歩五志低減せられた るも時既に遅く外國市場に販路を失したるのみならず、白耳義ルクセンブルグ等	二二五・〇 二二五・〇 二二五・〇 一月七日	二四七・六 二四七・六 二四七・六 一月七日	二四七・六 二四七・六 二四七・六 一月七日	二四七・六 二四七・六 二四七・六 一月七日	二四七・六 二四七・六 二四七・六 一月七日	二四七・六 二四七・六 二四七・六 一月七日	二四七・六 二四七・六 二四七・六 一月七日	二四七・六 二四七・六 二四七・六 一月七日	二四七・六 二四七・六 二四七・六 一月七日	二四七・六 二四七・六 二四七・六 一月七日	二四七・六 二四七・六 二四七・六 一月七日	二四七・六 二四七・六 二四七・六 一月七日
より、クリーブランド生產品に比し甚だ廉價に輸入を見るに至れり、二月一日には一律に毎噸二十志を低下し更に旬日ならずして第一號に對し五志の低減を見た り、蓋しコーケスの値段毎噸六十二志九片が五十四志六片に引下げられたるに因 る、次でクリーブランド勞働者の賃銀も毎週二志の引下を見更に三月一日非常な 低減を斷行し、第一號百五十志即ち生產費以下に減じられたるも猶歐大陸品に 比すれば非常に高價なりしを以て更に四月五日三十志を減じ、斯の如くして三箇 月間に低減せられたるもの毎噸百五志に及べり、炭業罷工中鑄物用クリーブラン ド・ファンドリー銑鐵は現品少かりし爲、一時値段昂騰し五月末日に於ては百四 十志を唱へたるも鎔鑄爐作業開始と同時に再び低下せり、十一月十日クリーブラ ンド製鐵業者委員會は鑄物用優良品を毎噸五志次等品毎噸十四志の低減を宣し最 後に十一月二十八日更に毎噸十志を低下すべき旨發表せり、故に同年四季を通じ て第三號ジー・エム・ビーの内國市價は次の如し。	一九一九年 一九二一年 一九二一年 一九二一年	一四四 一四一 一四一 一四一	一一・九五 七・五〇 七・五〇 七・五〇	一九二〇年 一九二〇年 一九二〇年 一九二〇年	二〇五 二〇五 二〇五 二〇五	一一・九五 一一・九五 一一・九五 一一・九五						

同年に於ける鐵鋼製品價格の變遷に就て見るに市價の驚くべき暴落は英國同工業の設定以來未だ曾て前例無しと稱せらる、戰時戰後に於ては市價並に勞働者賃金は漸時昂騰偶々一九二〇年末下降の徵發したるも何人か今日の暴落を想像せる者あらむ惟へらく下降は徐々に來りて法外なる高價を調節すべしと、然るに大陸諸國に於ける信用狀態露國の慘状等諸工業に急轉直下の變動を惹起し世は擧て購買力を消耗し、獨佛白等との爲替關係は遂に英國の鐵工業をして甚しく衰頹の域に陥らしめ價格は終に生產費以下に引下すむば到底對抗存立を困難ならしむるの状勢に陥れり、英國鐵鋼業は外國貿易消長に關し盛衰は英國の休戚に重大なる關係を有す、鐵鋼等の市價は素より一國によりて定まる事勿論なるも左表を見れば同年英國鐵鋼業者の慘状を窺知するを得べし。

鐵鋼製品價格管理値段及一九二一年頭年末比較表

第三號ジー・エム・ビー二箇年間平均値段表 一九二〇年	一九二一年	一月一日 十二月三十日
即ち平均百四十三志一片八〇にして第三號平均値段は百四十一志七片五なりき 第三號ジー・エム・ビー二箇年間平均値段表 一九二〇年	一九二一年	一月一日 十二月三十日
自一月至三月 自四月至六月 自七月至九月	一七八 二〇三 二一七	七・三二 六・九二 七・五五
自十月至十二月	一〇九	一三二
自一月至三月 自四月至六月 自七月至九月	一九八 八・九六 一・二六 一一・五六	九・四二 九・四二 九・四二
自十月至十二月	一九八 八・九六 一・二六 一一・五六	七・五五 七・五五 七・五五 七・五五
自一月至三月 自四月至六月 自七月至九月	一九八 八・九六 一・二六 一一・五六	一三一 六・三一 六・一三
自十月至十二月	一九八 八・九六 一・二六 一一・五六	一三一 六・三一 六・一三

板 板は一旦  
の引下さ

而して鋼板は一月二十一日、二月十八日、三月二十一日に毎噸各二磅宛、四月には毎噸三磅の引下を見、結局十五磅となり八月二十三日に十四磅十月十三日には終に十磅十志迄引下られ輸出物に對しては内國市價より三十志の引下を見たり。

労働者賃銀の昂騰は戦後好況時代鐵鋼値段暴騰を助長せること妙からざりき、當時労働者の要求には殆んど際限なく從て生産費も邊に昂まりて、却て產出量は之が爲減少を示すに至れり。

銀超過率を比較せば思ひ半ばに過ぐるものあらむ。

地名標淮率超過割合

	一九一四年八月		一九二〇年十二月	
	地名	埠名	地名	埠名
ミーラン・ウェージス・ボールド	北イングランド鐵鋼ミルナン	五	二・二分の一	二三〇
南ウエルズ・マンモー製鋼所	スコットッシュ・プットラース	一	二七・四分の三	一八六・四分の一
エンジンメン	コンサート・ジアーロウ・ミル。	一五	一四二・二分の一	一四二・二分の一
クリーヴランド・プラスト・フ アナスメン	北イングランド・スマルタース	二三・四分の三	一六三・二分の一	二七〇
一九一三年平	一九二一年一月	同十二	一八八・四分の三	一九一三年中
均 <small>磅志片</small>	均 <small>磅志片</small>	均 <small>磅志片</small>	下降の割合	年に比する昂騰率
第三號クリープランド	三〇〇	二五〇	五〇〇	五
片(軟)六二六	六〇〇	七五〇	七五〇	七
板セセ六	四〇〇	一〇一〇〇	一〇一〇〇	一八
美				三

然るに一九二一年初頭より引續き價格下落し而も其程度他の產業就職者に於て見られざる甚しきものあり、銑鐵竝に製品三、四種に付一九一三年中の平均價格一九二一年一月同十二月の値段竝に騰降の割合を比較せば左の如し。

	一九二〇年	報告を徵した る會社の數	勞動者數	每週每頭平均 賃銀
九	一月	一六五	一七八、四五一	四・一六・八 <small>磅</small>
十	一月	一六五	一六一、六三九	四・一八・八
十一	二月	一六五	一五七、二六一	四・一六・八
十二	一月	一六五	一六六、三六八	五・三・一
一	一月	一三五	一三二、八四六	四・一六・八
二	月	一三五	一一五、一一七	四・一三・一
三	月	一三五	一二二、四一三	四・四・六
四	月	一二七	四六、八六四	三・八・六
五	月	九二	二二、一六九	三・五・七
六	月	七九	一七、一六七	三・三・七
七	月	七三	三四、八六〇	三・七・六
八	月	七七	六一、〇四九	三・一五・六
九	月	一〇一	七九、四六七	三・一四・二

とし、極めて妥協的態度を持したるを以て労働紛議を見ざりしが、クリーヴラン  
ドの如きは賃銀の下降最甚しく例へば同鎔鑄爐就労者は銑鐵平均實值三片の高下  
に對し其比四分の一の昂低あることゝせるスライディング・スケールの下に左の如  
き變遷を見たり。

期	間	六・七五	二六・二五	七一・二五	七二・七五	低	標準賃銀超過率
一月二日	一月二日	一	一	一	一	一	一
四月二日	七月三日						
十月二日	十一月二十八日	四五					
期	間	輕減率	標準超過率				
一月三十一日	一月三十一日	五	二二五				
三月二十八日	三月二十八日	二五	二〇〇				
五月三日	五月三日	三〇	一七〇				
八月一日	八月一日	四七・一分の一	一二二・二分の一				
九月二十六日	九月二十六日	二五	九七・二分の一				
十一月二十八日	十一月二十八日	一〇	八七・三分の一				

す、商務省發表の指數によれば一般卸賣値段は一九一四年に比し五割八分の増加を以てなるも鐵道運賃は十一割二分の増加を示せるものとし、識者は運賃率の現状を以て内外貿易を沮むものとなしクリーヴランドに運搬せらるゝ銑鐵一噸十八志二片（戦前八志十片）の賃率存する限り大陸諸國產品のクライドに輸入するを杜絶する能はざるべしと稱せられたり。

英國に於ける輸出品の大宗は石炭、鐵、織物等にして鐵及鐵鋼製品輸出の多寡は單に英國輸出貿易の消長のみならず國民經濟生活に重大なる關係を有す、一九二一年に於ける鐵及鐵鋼製品貿易は前述せるが如く不幸にして内外諸種の事由に依り殆ど前例を見ざる頗勢を示せり、英國への鐵鋼同年中輸出入數量を二期に分ち之を前年一九二〇年の同期に比較するに左の如し。(單位噸)

	輸入	輸出	輸出超過額
一九二〇年自一月至六月	三四四、五六	一、七五三、六八	一、三三八、五三
一九二〇年自六月至十二月	六八三、九五八	一、六〇〇、五七九	九、六六七、零九
一九二一年自一月至六月	七三三、八〇三	八七一、九九九	一一六、一四六
一九二一年自六月至十二月	九〇九、七三八	八八四、五六六	(一) *
備考 *六月より十二月輸入數量は輸出數量を超過す。			
左に同年輸出入數量を一九一三年、一九二〇年と比較し夫々品別により其割合を示せば左の如し。(單位噸)			

鐵鋼及同製品輸出表

一九二三年	一九二〇年	一九二一年
一、一二四、一八一	五七九、五〇九	一三五、九九八
一四一、四五二	五八、九六六	三一、四四一
鋼棒、條竿、山形 フープス・ストリ	二五一、〇五九	一〇七、一二七
ツップス	四五、七〇八	二二、八三一
板、薄板	五六、四六八	一二八、〇八二
板、黑薄板	一九八、八三一	四八、七八八
黑鍍板	六八、一五二	三六、一二三
ス(鑄)	七一、七七五	一四、一四四
ス(鑄)	七六二、〇七五	四一〇、七八四
ティネツド・鋼板	四九四、四九七	二一一、六二八
テエプス・パイプ (鍛)	三五三、〇五八	二三六、四八二
テエプス・パイプ (鍛)	二三五、〇五二	五六、八三〇
鋼軌道材料	一〇〇、四一二	一八二、八六七
鋼鐵製品	一六四、五五六	三八、七六六
鋼鐵製品	一二五、九一二	二一、三一五
鋼鐵製品	一三四、二二七	一五、一五一
鋼鐵製品	五〇六、五八五	三〇、六〇〇
鋼鐵製品	七五、五八九	二二〇、七七九
鋼鐵製品	六〇、五二二	一一九、五二五
鋼鐵製品	五五、七三九	五二三、〇一一
鋼鐵製品	三四、五三三	三七七、六〇一
其 他	一、七〇〇、四〇七	二三六、四四八
計	四、九六九、二二四三、二五一、二二五	一、七〇〇、四〇七

十二月に於ける各國產銑鐵値段比較表を掲ぐれば左の如し。

銑鐵值段比較表

生産國値段		英貨換算額		生産國値段		英貨換算額	
國	國	國	國	國	國	國	國
二〇・〇〇	弗	一・一・五・〇	一	一九・〇〇	弗	一・一・五・〇	一
四五・〇〇	法	八・五・〇	一	二・一〇	法	四・一〇・三	一
四〇・〇〇	馬克	七・七・六	二	四・一〇・〇	馬克	五・一五・〇	一
一六六・〇〇	一	六・一八・〇	三	四・五・八	一	五・一五・〇	一
獨	六	六・七・六	三	四・八・〇	三	五・一五・〇	一
國	三三・一六	馬克	二	四・八・〇	一	五・一五・〇	一
一	六	六	二	四・八・〇	一	五・一五・〇	一
六	六	六	二	四・八・〇	一	五・一五・〇	一
七	七	七	二	四・八・〇	一	五・一五・〇	一
八	八	八	二	四・八・〇	一	五・一五・〇	一
五	五	五	二	四・八・〇	一	五・一五・〇	一
〇	〇	〇	二	四・八・〇	一	五・一五・〇	一

輸入價格表

ス	ト	棒	片	棒	ク	ツ	ス
三	三	三	一	九	一	二	九
九	六	一	七	二	二	五	二
六	○	○	六	六	六	五	一
一	○	一	七	八	四	五	九
一	○	七	五	二	九	一	二
○	六	○	○	六	○	五	一
○	六	○	○	六	○	志	年
○	六	○	○	六	○	月	片

願みれば一九一九年には其大部分内國市場に供給を保證せるが爲、銑鐵の輸出を制限せるも其後輸出歩打を必要とし、更に一轉して一九二一年には其獎勵を圖ると同時に外國產品の輸入を防止せむとするに至りたり、畢竟するに價格の問題に外ならず。

而して一九一三年に在りては英國產銑鐵每噸三磅にて何れの國よりも低廉なりしが、一九二一年に至りては一月十一磅五志にして諸外國產品に比し著しく高く十二月五磅十五志に下降せるも猶最高を示せり、一九一三年並に一九二一年一月

45

先づ同年中の輸出状況を概観するに曾て當國鐵鋼業の輸出額最寡少なりし一九一八年の夫れと大同小異にして一、七〇〇、四〇七噸、其價額六三、七七二、四五三磅、前年三、五一、〇二五噸、其價額一二八、九〇七、三六一磅に次<sup>セ</sup>ば大約其半額に過ぎず。

鐵鋼(屑鐵を含む)の一九一三年、一九二〇年及一九二一年中に於ける各月輸出高を表示すれば左の如し。(単位噸)

一九二〇年中大陸諸國は獨逸を除き其他の諸國殆ど一九一三年と同量の英國鐵鋼を輸入し、佛蘭西、白耳義の如き事業復舊の爲事實上一九一三年以上に英國鐵

鋼を輸入せるも、爾來英國產品の値段昂騰と大陸諸國爲替相場の暴落は終に英國鐵鋼の輸出を沮し、白耳義は一九二〇年二〇一、九三六噸を輸入せるに一九二一年には四六、三六四噸に、佛は二〇年一七〇、三一七噸なりしに二一年には三一、九二三噸に、伊太利亦二〇年に一〇四、六七六噸を算したるに二一年には二一、八六四噸に激減せり、今エコノミスト誌所載の數字により英國鐵鋼輸出先を示せば左の如し。(單位噸)

英 國	一 〇 月	一 一 月	一 二 月	一 三 季	一 四 季	一 五 季	一 六 季
英 國	一 一 月	一 二 月	一 三 季	一 四 季	一 五 季	一 六 季	一 七 季
英 國	一 一 月	一 二 月	一 三 季	一 四 季	一 五 季	一 六 季	一 七 季
英 國	一 一 月	一 二 月	一 三 季	一 四 季	一 五 季	一 六 季	一 七 季
英 國	一 一 月	一 二 月	一 三 季	一 四 季	一 五 季	一 六 季	一 七 季

歐洲諸國	一、三〇八、〇〇〇	一、一一八、〇〇〇	二四〇、〇〇〇
自餘の諸國	一、三五二、〇〇〇	七二三、〇〇〇	三六〇、〇〇〇
英領土	二、三〇九、〇〇〇	一、四一〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇
計	四、九六九、〇〇〇	三、二五一、〇〇〇	一、七〇〇、〇〇〇

由是觀之同年英國產鐵鋼市場は歐洲諸國不振を極め一九一三年の輸出額の約五分の一に歐洲諸國以外の外國亦減退を呈し戰前の約四分の一に減じ、而して其減少の程度最甚かりし英領土の輸出數量も之を一九一三年に比すれば其半ばに達せず。

歐洲諸國以外の輸入國中主なる者は亞爾然丁、日本、伯刺西、北米合衆國等なりしが、試に一九一三年一九二〇年一九二一年に於ける佛白獨米の輸出數量を比較せば左の如し。(單位噸)

米英領印度	七二、五五八	一四、二四一	一〇、八〇九
蘭逸本典洲	三一、一七八	五、〇一五	三、四七四
瑞豪奈陀	二四、四八四	一九、二一九	二六、五七四
加他	一、一二七	一、二四八	三、一九六
計	三六二、八七〇	一、一二八	一、五六二
同年鋼鐵の輸出數量一〇七、一二七噸にして一九二〇年三六二、八七〇噸に減少五五、七四三噸の減少を見たるは英領印度、本邦、佛蘭西への激減せるによる、鋼鐵輸出國別を示せば左の如し。(單位噸)	一九二〇年	一九二一年	一九二二年
英領印度	一一七、七五〇	二九、四六一	二九、四六一
豪南日	七、〇四三	一四、九一一	一四、九一一
佛蘭西	九、八三〇	六、七五八	六、七五八
ニユージーランド	二四、二七〇	五、一九四	五、一九四
海峽殖民地	五、二九三	四、八〇九	四、八〇九
加奈陀	二七、一二一	三、八四五	三、八四五
其	九、一〇二	二、六一六	二、六一六
	二、六三一	一、〇三六	一、〇三六

同年鋼鐵の輸出數量一〇七、一二七噸にして一九二〇年三六二、八七〇噸に比し二五五、七四三噸の減少を見たるは英領印度、本邦、佛蘭西への激減せるによる、鋼鐵輸出國別を示せば左の如し。(單位噸)

薄板は前年に比し輸出減少し殊に電鍍板及黒薄著しく日本、亞爾然丁、印度、ニユージーランド及濠洲への輸出減少に歸因し、全數量は一九二〇年の約半數二一、六二八噸なり、鐵力板亦惡しきにあらざりしも一九二〇年に比して一二六、五七六噸を減じ、而して一九一三年の半數より少かりしも支那への輸出は前年に比し少しく増加し、日本への輸出は一九二〇年九、九五八噸なりしも同二一年は二一、八一八噸加奈陀への輸出も二、一六八噸を増加せり、和蘭への輸出は前年に比し少しく減退し、印度に對しても相當の輸出あり、而して佛蘭西に對しては前年六〇、五六六噸を算したるも激減して六、五一二噸となり、自葡萄伊濠共に減退を見たり。左に一九一三年二〇年及二一年の三箇年薄板輸出高を比較すれば左の如し。(單位噸)

其英錫領南蘭阿他六、一四四  
二、八四〇  
九、六六五  
一一、〇五五

英領印度	一一七、七五〇	二九、四六一
日南濠	七、〇四三	一四、九一一
阿洲	九、八三〇	六、七五八
本邦	二四、二七〇	五、一九四
ニユージーランド	五、二九三	四、八〇九
西蘭蘭	二七、一二一	三、八四五
地民殖峽海	九、一〇二	二、六一六
陀院奈奈加	二、六三一	二、〇三六
他		
計	三六二、八七〇	一〇七、一二七
次に鐵鋼製品に就て見るに軌條及挿接板は前年に比し輸出高を増し、前者は一九二〇年一三四、二二七頓、一九二一年には一八二、八六七頓、後者は二〇年六〇、六八三頓、二一年六八、五六一頓を算せり、而して軌條は亞爾然丁共和國及印度への輸出多かりしによる。		

英領印度  
亞爾然丁  
紐ージーランド  
二五、六四六  
七、五九八  
一、八五一

拔萃英國鐵工業狀況

蘭領東印度  
海峽殖民地  
其他諸國

計

一八、一二四  
八、二六二

五、六一  
三、一九三

四九  
三六、一二三  
一四、一四四

其他條、竿の輸出額を表示すれば左の如し。  
條、竿類輸出國別（單位噸）

一九二〇年及二一年葉鐵板輸出國別表（單位噸）

一九二〇年

一九二一年

一九二〇年

一九二一年

五一、五五九  
九、九五八  
二一、五九八  
四七、三三六  
一七、一一八  
一七、〇三二  
六〇、五六六  
一二、七六一  
一六、〇七三

四〇、〇二二  
二一、八一八  
二〇、五四一  
一八、二九五  
一六、一一二  
八、〇七八  
六、五一三  
五、〇〇八  
四、四七一

一九、六九二  
一、九二九  
二、二八七  
五、五二六  
二、一二四  
一、七四八  
三、八七九  
一、四九三  
一、一一六

九、〇七六  
三、三五四  
二、四三五  
一、九八二  
一、四八五  
一、一七二  
一、一七二

英領印度  
英領南阿  
ニュージーランド  
支那  
ブルジル  
アラ爾然  
亞他

英日和濱支白佛諾伊其

太 計

一九二〇年及二一年黑薄板（厚さ八分の一時以下のもの）輸出國別表（單位噸）

一九二〇年

一九二一年

一九二三年一月平均

一九二〇年一月平均

尙一九二一年月別表次の如し。（單位噸）

一月

二月

三月

四月

五月

六月

七月

八月

九月

十月

十一月

十二月

計

五八、九六六

三一、四四一

而して英國より本邦に輸出せらるゝ主なるものは銑鐵亞鉛引板、鐵板及鍼力板等にして日本への輸出状態を示せば左の如し。

一九、八〇〇噸

一四、五〇〇噸

一月

二月

三月

四月

五月

六月

七月

八月

八月

九月

十月

十一月

九月

十月

十一月

十二月

十月

十一月

十二月

一月

十一月

十二月

一月

二月

十二月

一月

二月

三月

一月

二月

三月

四月

獨米白

耳

義國逸

四五二

其濱佛蘭印領英

蘭印領英

洲西他

一三八、四六二

（單位噸）

一九二〇年及二一年黑板輸出國別表（單位噸）

一九二〇年

一九二一年

一九二三年一月平均

一九二〇年一月平均

尙一九二一年月別表次の如し。（單位噸）

一九二〇年一月平均

（單位噸）

一九二〇年

一九二一年

一九二三年一月平均

一九二〇年一月平均

尙一九二一年月別表次の如し。（單位噸）

一月

二月

三月

四月

五月

六月

七月

八月

九月

十月

十一月

十二月

一月

二月

三月

四月

五月

六月

七月

八月

九月

十月

十一月

一二月

一月

二月

三月

四月

五月

六月

七月

八月

九月

十月

十一月

一二月

一月

二月

三月

四月

五月

六月

七月

八月

九月

十月

十一月

一二月

一月

二月

三月

四月

五月

六月

七月

八月

九月

十月

十一月

一二月

一月

二月

三月

四月

五月

六月

七月

八月

九月

十月

十一月

一二月

一月

二月

三月

四月

五月

六月

七月

八月

九月

十月

十一月

一二月

一月

二月

三月

四月

五月

六月

七月

八月

九月

十月

十一月

一二月

一月

二月

三月

四月

五月

六月

七月

八月

九月

十月

十一月

一二月

一月

二月

三月

四月

五月

六月

七月

八月

九月

十月

十一月

一二月

一月

二月

三月

四月

五月

六月

七月

八月

九月

十月

十一月

一二月

一月

二月

三月

四月

五月

六月

七月

八月

九月

十月

十一月

一二月

一月

二月

三月

四月

五月

六月

七月

八月

九月

十月

十一月

一二月

一月

二月

三月

四月

五月

六月

七月

八月

九月

十月

十一月

一二月

一月

二月

三月

四月

五月

六月

七月

八月

九月

十月

十一月

一二月

一月

二月

三月

四月

五月

九一三年には前掲諸品の六割は獨逸より二割は白耳義より輸入せられたるも同年は五割八分白耳義より而して四分獨逸よりの輸入を見たり、又一九一三年には鐵板及葉鐵板計三四五、五〇〇噸にして内二六七、五〇〇噸獨逸より輸入せられたるも同年は右二品の輸入數量一〇〇、七〇〇噸にして獨逸より六、〇〇〇噸の輸入を見たり、同年中鐵鋼及同製品輸入表を掲ぐれば左の如し。(單位噸)

合	鋼 重 鋼 板 黑 軌 條	板 八分の 一 板 八分の一 板	ガーラー ス、ビ ーノ フープス、ストリ ーク	他 鋼 棒
---	---------------------------------	---------------------------------	-------------------------------------	-------

軌  
隆

先づ輸入鑛石の状況を見るに當國製鐵業は内地産鑛石のみに頼る能はざるは戰前よりの統計既に之を明示し更に銑鐵鐵鋼板等の半製品も主として歐洲大陸諸國よりの輸入を待ち加工精製して内外の需要に充てつゝあり、而して輸入鑛石の五割五分以上は西班牙産へマタイト鑛石其他佛領北阿弗利加アルジエリア及びチニス・スカンジナヴィア半島よりの輸入品主たるものなるが同年は前述の理由により外國産輸入鑛石の分量も例年に比して渺かりき、左に輸入鑛石の數量を國別に依り前年と比較するに左の如し。(單位噸)

量に上りたるは其主因たり左に銑鐵輸入數量を種類別並に國別に掲ぐれば左の如し。（單位噸）

51

自	獨	米	其	計	耳
瑞	其				
耳					
義					
他					
他	他	他	他	他	他
典	典	典	典	典	典
義	義	義	義	義	義
棒	棒	棒	棒	棒	棒
、	、	、	、	、	、
山形輸入國別表					
三七、二二九	三七	三七	三七	三七	三七
一四六、一六八	一四、一七〇	一四、一七〇	一四、一七〇	一四、一七〇	一四、一七〇
七七、七六八	六一、九二四	六一、九二四	六一、九二四	六一、九二四	六一、九二四
二五一、二〇二	一七一、九九七	一七一、九九七	一七一、九九七	一七一、九九七	一七一、九九七
五二、九九一	五、八四五	五、八四五	五、八四五	五、八四五	五、八四五
一二、七七三	九四、八一〇	九四、八一〇	九四、八一〇	九四、八一〇	九四、八一〇
二五、〇四三	一〇〇、六五五	一〇〇、六五五	一〇〇、六五五	一〇〇、六五五	一〇〇、六五五
九〇、八〇七	一〇五、七一〇	一〇五、七一〇	一〇五、七一〇	一〇五、七一〇	一〇五、七一〇
一	四、八〇七	四、八〇七	四、八〇七	四、八〇七	四、八〇七
一	一七、七二五	一七、七二五	一七、七二五	一七、七二五	一七、七二五
二	一二八、二四二	一二八、二四二	一二八、二四二	一二八、二四二	一二八、二四二

## 二、地方別生産状況

1、イングランド北部

クリーヴランド地方 同地方は英國に於ける鐵鋼生産の中心地にして、ブラッコア一、ヴァガアン會社が同地方の有望なるを認めて工場を設立したる以來、幾歳を閱し時に盛衰ありたりと雖未だ嘗て一九二一年に於けるが如き不振衰頽其極に達したことなしと謂ふ。

一九二一年は既に述べたるが如く同地方生産業者は外は外國に於ける販路を失ひ内は炭業罷工の悪影響を蒙り工場は作業を中止し労働者は職を失ひ爲替の關係上佛白獨産銑鐵の輸入多量に上り製造業者は對抗上價格を引下從て生産費遞減の

爲賃銀の引下をなせるも猶鐵道運賃燃料の高き爲障害渺からざりしが如し、翻てクリーヴランド銑鐵一噸を生産せむが爲には原料約五噸半を要し原料鐵鑛の鐵道運賃は當該工業の状態に鑑み、一時的救濟方法として一割六分乃至二割の割引を見たる結果同地方製造業者は毎噸一志十片を節減することを得たるも當業者は同時に銑鐵連搬費も根本的の引下を見ざれば以て當該工業復舊に資すること能はず

となせり、現に一九二一年中同地方と蘇格蘭市場との取引は運賃高率の爲非常なる障礙を蒙り延て外國産銑鐵との競争に堪へず戰前クリーヴランドよりグレンジマスへの銑鐵運賃は每噸八志十片なりしが同年は約其二倍に昂騰し沿岸海運賃率は非常に低下せられたるに拘らず船積船卸費昂騰せる爲海路を擇ぶこと能はざるの状態なりき、燃料コークスの値段は多少引下を見たるも其程度充分ならず鐵工業の復舊を促すに足らざるものあり、是等の原因に基き多數の鎔鑄爐は事業を中心し輸入外國品に壓倒せられたり、昨年八月より十一月に至る四箇月間テークスにて輸入せる大陸産銑鐵七〇、四九九噸にして同年同港輸出英國産銑鐵の數量を超過す、而して同年十二箇月間同港を通じて英國への輸入額は大約一〇五、〇〇〇噸にして一九一三年中の同輸入額三、七五四噸に比すれば増加の程度著しきものあり。

今テース、ミラドルスブル港に於ける同年輸出數量を一九二〇年と比較すれば左の如し。（單位噸）

佛蘭西

一九二〇年

## 2、東岸へマタイト産出地方

自伊	耳太	義利本抹國蘭利牙逸
諾威及瑞典	米丁獨	西奧蘇班地
和	米	利蘭國抹牙逸
諸威及瑞典	利蘭國抹牙逸	西奧蘇班地
四二、八五〇	一〇四、七五三	一一、六〇〇
一〇、九一四	一〇、九一四	一一、二〇〇
六、七一〇	一四、〇三六	二、七八〇
七、八一四	五、〇三〇	三、一五二
四、九七六	一、八九五	一、一九〇
五〇〇	一、一九〇	一

他の沿岸諸港  
一九二〇年一九二一年テースより鐵鋼製品輸出數量を國別により掲ぐれば左の如し。(單位噸)

印度及錫蘭	一二二、六五九	一九二〇年	一一、一九五	一一、一九五
南東阿弗利加	四四、〇三七	一九二一年	一一、一九五	一一、一九五
支那及香港	一五、〇〇四	一九二〇年	五六〇	二三、四八八
日本及亞爾然丁	二八、三四二	一九二一年	三一、四二〇	一八、五一四
亞洲及ニュージーランド	一一、一八三	一九二〇年	八、四九八	一六、一八五
海峽殖民地	八、三一四	一九二一年	一一、二七七	一二二、二七七
白耳太	六、〇〇三	一九二〇年	一一、二九五	一〇四、七五三
佛蘭西蘭	六、四四七	一九二一年	二、一七〇	一〇、九一四
和丁	五、一四〇	一九二〇年	二、一七〇	六、七一〇
西阿弗利加	二、八〇〇	一九二一年	一、八九五	七、八一四
	二、八〇五	一九二〇年	一、八〇一	四、九七六
	五、六三四	一九二一年	三、二一二	五、〇三〇
	二、八四五	一九二〇年	六、〇三八	一、一九〇

自伊	耳太	義利本抹國蘭利牙逸
諾威及瑞典	米丁獨	西奧蘇班地
和	米	利蘭國抹牙逸
諸威及瑞典	利蘭國抹牙逸	西奧蘇班地
四二、八五〇	一〇四、七五三	一一、六〇〇
一〇、九一四	一〇、九一四	一一、二〇〇
六、七一〇	一四、〇三六	二、七八〇
七、八一四	五、〇三〇	三、一五二
四、九七六	一、八九五	一、一九〇
五〇〇	一、一九〇	一

同年鐵鋼產出地方は何れも經濟界一般不景氣の影響を受けざるもの無しと雖、ざりしが如し、勿論ヘマタイト生産者と雖大陸諸國爲替暴落の關係上外國市場に於ける販路を失ひたるは事實なるも之亦銑鐵の夫れに比すれば稍々輕く而も銑鐵の場合に於ては單に外國市場に販路を失ひたるのみならず輸入銑鐵の爲壓倒せられたるもヘマタイトは斯の如きことなく内國市場は依然として其支配するところなりき、勿論内國に於ける需要は是亦著しく減少せりと雖爲替の關係に依る外國品の競争なく猶僅少なるも主として伊太利より需要に應じたり、加ふるに同生産費著しく下降せるを以て鎔鑄爐をヘマタイト鐵生産に代用し一九二一年初頭ヘマタイト鎔鑄爐は東北沿岸に於けるクリーヴランド鎔鑄爐と其數殆ど同じく前者は二十六後者は二十四同年末銑鐵鎔鑄爐は其數僅に三箇所なりしに東部沿岸ヘマタイト產出地方にて十三を算せり、ヘマタイト製造業者に採りて好影響を與へたるものは鎔石の値段及運賃率の急激に下降せることなりき、一九二〇年春ビルバオよりテース迄の鎔石運賃は毎噸三十七志なりしが一九二一年末に至りてはルビオ鎔石二十六志に降れり(一九二〇年三月に於ける時價の約三分の一)故に十二月には最上ルビオ鎔石每噸七十志(鎔石二噸より銑鐵一噸を產出し得べし)而も同地方製造業者は値段を引下したるを以て南ウェールス鋼鐵製造業者に専からず販賣するを得たり。

一九二〇年末既に生産費の節減を行ひ二一年初頭販賣値段毎噸一磅を低下し旬日ならずして輸出打歩毎噸五志を引下遂に之を全廢二月一日毎噸二十志更に三月一日四十志、四月一日炭業罷工開始するや更に二十志其後三箇月を出でずして五磅を引下たるも猶賣行なかりき、炭業罷工中ヘマタイト・ミッキスト、ナムバー一百六十五志なりしが、八月中國內市場並に輸出物等しく毎噸百四十志に割一し更に三週間後十志を減じたるを以て十二月に至りては伊太利の如き「リラ」暴落に拘らず多少の需要あり、要するに一九二一年中東部沿岸ヘマタイト・ミッキスト、ナムバーの平均價は百六十志二片七十八にして一九二〇年平均價格は二百五十二志四片四十六なりき左に一九二一年を四期に分ち内國平均價格を掲ぐれば左の如し

(\*概算)?

カムバーランド及北ランカシャーに於ては一月初旬二十三工場作業に從事したるも一月末八箇所に減じ三月末十二に増加せるも炭業罷工開始後生産費は益々昂騰し年末に至りては僅に五箇所を算したるのみ、七月にはヘマタイト鉄毎噸八磅を五磅に引下たるも依然として販路を見ず、鐵普通品は大部分地方の需要に供されたるもマンガニース・アロースの工場は同年中殆ど作業を中止し居れり、ヘマタイト・ミックスト・ナムバーは一九二一年一月五日十三磅十五志、一月十七日十二磅に、二月十一日十一磅、三月四日十磅、六月三日八磅、八月二十六日七磅十志、九月九日七磅、十月七日六磅八志六片、而して十一月一日五磅十八志六片十二月末五磅十三志六片に下降せり。

鎔鑄爐就労者の賃銀に付て一言せむに一九一九年九月標準率以上一三七、四分の一なりし者、一六八、半に上り同年十二月末日一六九、四分の一となり、一九二〇年四月には一九七、八月二五六、十二月二七五に昂騰せるも、一九二一年四月二一五、七月、一六三四分の三、十月一〇八、四分の三に下降、同年末資本家と労働者の間に賃銀は向ふ六箇月間の一時的手段として從來の三箇月極に代ふるに各月スライディング・スケールに依るべきを規約し、雇主は若ミックスト・ナムバーの値段每噸七十志を下降する場合は標準率以下に賃銀を引下ぐるを提議し得る旨規約せり。

要するに同地方鐵工業は自餘の諸工業に比し振はざること夥しく而も労働者の態度甚だ頑強にして状態實に慘憺たるものありき。

#### 4、シエフィールド地方

同地方の製鐵業も他地方と同様甚だ振はざるものあり、蓋戰時の需要に應じ非常に事業を擴張せる爲、戰後好況時代の反動も特に同地方に著しく從て同年不振に際しては一層寂莫の感ありたること怪むに足らず、同地方に於ても一九二〇年未より衰勢の徵を崩し價格頗りに下降大陸品の競争日に甚しく、一九二一年一月鉄毎噸二磅を引下多少回復の徵ありたるも再び衰運に向ひ四圍の状況は一段の引下を要求するに至れると同時に大陸品の輸入益々多く二月下旬に至りては北リ

	自一月	自四月	自七月	自十月
至二月	至六月	至九月	至十二月	
二二三・三 志片	一六〇・九二・三 志片	一五一・一〇・七八 志片	*一一五 志	
自一月	自四月	自七月	自十月	
至二月	至六月	至九月	至十二月	
二二三・三 志片	一六〇・九二・三 志片	一五一・一〇・七八 志片	*一一五 志	

3、イングランド西北部

ンコーンシアに於て十八箇所の工場作業を中止し、三月に至り更に銑鐵の値段に大々的引下を斷行せるも尙販路を得ず、外國產鹽基性銑鐵毎噸約六磅、鑄物用亦約七磅にて輸入せられたるを以て國內市場に於ても自然高價の内地產品の賣行を見ず同地方產品は殆ど外國品に壓倒せられたるの觀あり、ダビシャー品亦同様なりしが炭業罷工に至りては白耳義產鑄物用鐵毎噸五磅にて輸入せられたり、右は品質劣等にして同地方の使用には適せざりしと傳へらる、同年秋季に至り幾分回復の徵見え殊に鑄物用製鐵工場は大陸製產品が依然リンコーンシア、ダービーシア銑鐵より低廉なりしに拘らず、作業を再開せるもの數箇所を算したるも猶製鋼用並に鹽基性銑鐵は共に同年を通じて需要なかりしが如し、十月に至りては再び沈滯リンコーンシアに於て作業に從事せる工場六箇所を出でず年末に近づくに従ひ益々沈靜價格著しく低下せり、左に一九二一年一月並に十二月に於ける價格を擱げ以て同地方の衰勢を示さむ。

	一月	十二月
ダービーシャ(銀)	一二・一〇志	五・〇磅志
ダービーシャ(鑄)	一二・一〇	五・三
リンコーンシア(銀)	一二・一〇	(十月七磅)
リンコーンシア(鑄)	一三・一〇	
東岸ヘマタイト(混合)	一三・一〇	五・一三
西岸ヘマタイト(混合)	一四・一〇	六・五
瑞典銑鐵	一八・〇〇	九・八
ダービシア(銀)	乃至一九・〇〇	
ダービシア(鑄)	二・九・六志片	
リンコーンシア(銀)	二・一〇・〇	二・一二・六
東岸ヘマタイト	二・一二・〇	三・五・〇
西岸ヘマタイト	三・一一・〇	

参考の爲開戦直前一九一四年七月初旬の値段を示せば左の如し。

	一月	十二月
ダービシア(銀)	一二・一〇・〇	二・一二・六
ダービシア(鑄)	二・一二・〇	三・五・〇
リンコーンシア(銀)	二・一〇・〇	二・一二・六
東岸ヘマタイト	二・一二・〇	三・五・〇
西岸ヘマタイト	三・一一・〇	

製鐵品に就て見るに同年初頭條普通品に對して大陸製品の競爭激甚なるものあり、同地方鐵製品の値段も漸時下降南ヨークシャー・クラウン・バーは一月に八磅

七六〇

一〇志を稱へたりしが、十二月には半額以下一三磅に又アイアン・フレーブス二八磅五志より一六磅五志に引下げられたるも殆ど何等の影響を見ず、鋼製品又同様にして既に同年年初シェフィールド產鋼(輕重共に)の取引なく大陸產ビレット

ストリップス、シエーピスのみマークドアイアンは相當生産せられたるもクラウニアイアンは殆ど無く生産實は同年十月より漸次下降せり左に同地產の價格は左の如し。

ビレットは僅に一磅を稱へたるを以て内國産最低價格一九磅を以てしては之亦到底對抗の餘地なく而も各國はシエフィールド産を需要するものあるも前掲爲替其他の關係上遂に取引なく、四月炭業罷工勃發以來事實上鋼の生産を中止し八月に至りて多少復舊せるも一般に價格の引下を要求せり、恰も當時大陸品の價格多少上りたるを以て國內の商況幾分回復の徵ありしも秋期再び不況を呈し十月に至りては平爐の休止せるもの六十基以上、作業に從事せるもの僅に三十基を超えず英國政府製艦取止となり斯の如くにして一九二一年を終れり同年中價格下降の趨向を表示すれば左の如し。

同年中に於ける鐵製品產出額割合を示さむに一九二一年十月迄の產出額は前年  
一九二〇年十月迄十箇月間に比し五三・九少く、鋼製品に至りては一月より九月迄  
末に至る迄外國輸入品の爲國內に販路を失ひ、十月より十二月末迄鐵力板工業は  
多少回復を見たるもさしたることなかりき、左にビレット・シートの同年九月迄  
の平均値段を三期に分け掲ぐれば左の如し。

## 5、スタッフオーディション 南部地方

スクラップ鐵鋼も共に濾需要するに一九二一年に於ける在シエフイールド地方當該工業は沈滯其極に達したるものと謂ふべし。

スタツフオードシヤ南部及ウルスター・シヤ東部地方も亦衰勢を呈し銑鐵工場は炭業罷工勃發前既に作業を中止し（價格は生産費以下に低落し）八月に至り作業を再開せるものありたるも產額極めて少量八月頃燃料の價格僅に低下せるもさて鐵工業に影響なし一方外國產品價格甚だ低かりし爲鐵鋼の市價低く同年スタツフオードシア南部地方に於て製產せられたるものは輸入鋼より焙燒せるベース、

スコツチ第三號銑鐵	一九二〇年志
クリーヴランド第三號	一三・一〇
西岸ヘマタイト	一一・五
クラウン棒	一三・〇
鋼棒	二七・一〇
二五・〇	二五・〇
一〇・〇	一三・五
〇〇・〇	五・五

板  
山形

二四・一〇  
一〇・一〇  
九・一〇

一九二一年四月炭業罷工勃發迄は同地方鐵鋼業は取引相當額に達したるも其開始以來燃料の供給を得ず殆ど同年を通じて回復を見ざりしと云ふも過言に非ず爲にコーケス銅鐵工場労働者は約六箇月間失業せりと謂ふ。

同地方銅鐵の値段を見るに四月より大陸產銅鐵の輸入多量に上りたるを以て罷工勃發當時スコットテツシユ毎噸八磅一〇志、ヘマタイト七磅一〇志を唱へ漸時下降し罷工終了の際猶勃發當時に比し毎噸一磅の低落を見爾來銅鐵の產額は例年の三分の一に過ぎざりき。

マンチエスター地方に於ける銅鑄物業も同年後半期は鐵道運賃率の高かりし爲影響を蒙り又同地方鐵鋼製品も同年前半期は左迄甚しからざりしも後半期に至りて殊に不振を極めたるが如し。

## 7、ウエールス南部

同地方も不振を極めたりと云ふ特に言ふべきものなく殊に罷工當時は電鍛板製造工業甚しく悪影響を蒙り終に閉鎖の已む無きに至れり、罷工終了後燃料の低下とライディング・スケール制により労働者賃銀下降の結果損失を顧みず生産費以下に價格を引下げ多少販路を得たるが如きも忽ち衰勢を呈せり、同年に於ける輸出數量を見るに二一一、六二八噸にして一九二〇年四一〇、七八四噸に比すれば約二十萬噸の減少を見たり、而して輸出國別は英領印度五七、八〇六噸を筆頭に本邦一三、九五一噸は其四位を占む而して鐵工業の一部門たる鍛力板工業も亦甚しく衰頼を呈し既に一九二〇年末に於て價格暴落の徵あり、外國註文品は引續き取引あり滯荷多くして一九二一年初頭には工場も事業を短縮したる爲產額を減じ炭業罷工勃發するに及びては偏に滯貨の處分に専心せしむるに至れり、尤も同年一月作業に從事せる工場數は二百九を算したるも四月に至りては全部休業八月に至りて値段を低下し燃料銅鐵の値段並に貨銀もライディング・スケールの結果下降するに及び多少復舊の觀あり、同月末作業に從事せる工場二百二十六、九月末三百十、十月末三百三十、十二月中旬全數の七割は作業に從事するに至れり。

而して同年の値段を見るに一月標準もの一箱三十六志三十七志の間なりしが白耳義產銅鐵ウエルズものより四磅安く輸入せらるゝに至り每箱二十八志に低下し六月更に二十六志となり、一方生産費も引續き下降十月末には每箱二十一志を

唱へ多少需要を増して十一月には二十一志六片より二十二志の間にありしが十二月下旬再び下降せり。

同品の輸出先を見るに一九二〇年には英領印度五〇、五五九噸、佛蘭西六〇、五六六噸、濠洲に四七、三三六噸を始め合計三五三、〇五八噸を算したるに、二一年は英領印度四〇、〇二二噸を筆頭に日本二一、八一八噸次位にあり、斯の如くして計二二六、四八二噸即ち約十三萬餘噸の減少を見る。

要するにサウス、ウエールス產銅鐵は大部分鍛力板に使用せられ輸出市場として本邦は相當重きを置かるゝを以て茲に掲記す。

## 8、蘇格蘭

蘇格蘭に於ける同年鐵鋼業も異常なる不振を示し大陸輸入品對抗上價格引下を行はざるべからざりしは他地方と異なるところなし。

同地方銅鐵に就て見るに一九二一年初頭は恰も前年十月中炭業罷工の爲二週間作業を中止したるを回復するの時期なりしに大陸產品廉價に輸入せられ年初製造業者は形勢を觀望して作業を中止せるもの多く其後不幸にも他地方に於ける炭業大罷工勃發して三箇月に及び一切の鐵工業舉て作業を中止せざるべからざるに至れり、罷工終息を見たるも猶二週日は作業に從事するを得ず、恰も大陸より銅鐵の輸入益々多量に上り値段の引下を行ひたるも到底之と對抗する能はず尤も原料鐵を低廉に獲得し得るに至りたる一方労働者賃銀の引下を見たるも猶燃料鐵道連貨の高き爲生産費の低下を顯著ならしむるを得ず、大陸產品依然として輸入せられ年末に至り鐵鋼製品製造業益々不振從て銅鐵の需要減退鎔鑄爐は十二月に至りては九箇所以上作業を中止せり同年銅鐵の價格を見るに一月毎噸十五磅を稱へたるもの年末六磅に引下げられたり。

銅製品は年初協會に於てシップ・ブレート及アングルス一噸夫々二五磅一〇志二四磅一〇志を附したるに漸時下向を示し造船業者より製造中止の申込ありて一段甚しきものあり加ふるに大陸製造所に於てシップ及ボイラーブレートを廉價に提供せるが爲愈よ打擊を蒙り同年十月七日協會はシップ・ブレートを一二磅一〇志に部分品を一二磅に低下するの已むなきに至り、ボイラーブレートはシップ・ブレート程速に且同等の程度に値段の引下を見ざりしは原料たる英國ヘマタイトが燃料の高値と労働賃銀の低からざりしに歸因するもシップ・ブレートは製造業者が原料として大陸產礦基性銅鐵に使用し得るを以て自然其値段低廉なりし

なり。

事情右の如くボイラーブレートは一七磅一〇志一〇片を唱へたりしに年末に至りては一四磅に低下せられたり、茲に一言すべきは同年十月頃に至りて協會は大陸品との競争上十一月十日以降シップ・ブレート及セクションの値段は當業者に於て隨意に附することを決議せる一事なり、勿論直に値段の大々的引下が實行せられたるには非ざるも兎に角シップ・ブレート一〇磅一〇志セクション一〇磅平均の値段として明に製造業者の損失を示し、同地方に於ける二會社が全然同年中其作業を中止せるを見ても如何に同工業が不振を極めたるかを窺ふに足る。

ブラック、スチール・シートに就て見るに斯業は鐵鋼品製造業中比較的悪影響を蒙らざりしものなるべし、尤も輸出品は同年初頭既に高値の絶頂より毎噸九磅一〇志の引下を見二九磅を唱へ同年前半期は大陸製造品の爲需要著しく減退し當業者は國內消費品に値段の引下を行ひ輸出品に對して更に大なる引下を斷行せり之を以て同年後半期には輸出埠々行はれ稍々改善の徵を見たるも時期既に遅く大陸諸工場は相當註文を受け居りたるものゝ如し、年末に至りてはライト・ブリチッシュ、シートは殆ど其價格大陸品と同程度に引下げられシンナー・ゲーデス・ライトは却て英國品の方低廉なりし旨を傳ふるものあり、當時の市價は八分の一時物一二磅五志に下降せり、鐵製品も同年初頭より鐵製品も價格下向の徵あり、國内消費用クラウン・アイアンの値段二七磅二五磅の間にありたるも大陸品の輸入ありて漸く國內に販路を失はんとするに擗てゝ加へて炭業罷工の爲悉く作業を中止し其間大陸品は續々輸入せられ偶々罷工終熄後作業を再開せるものあるも產額多からず、年末に至りては國內消費クラウン・アイアン一二磅一〇志を唱ふるに至れり同年中屑鐵も不振値段益々下向輸出殆ど無かりしと云ふも過言に非ず、尤も後半期東洋との貿易多少復活の徵を示したるも爲替の狀態不確實なりし爲面白からざる者ありしが如しヘビー・マリエーブル・アイアン年初七磅乃至八磅を唱へたるも年末三磅に低下しスチール・スクラップ亦同じく六磅より二磅七志六片に下降せり、ターニングス・ボーリングス年初五磅のもの一磅十志に下降し其他屑鐵原料亦同様にして商人は回復の季を待つものゝ如し。

### 三、結論

一九二一年英國鐵工業萎靡哀頽は如上詳述せる如し今之を同年勞動狀態より察するに勞動者離職の徵は既に戰後好況時代の反動襲來せる一九二〇年末に端を發

英國政府發行勞動週報に依れば一九二一年中貨銀低減の影響を蒙りたる鐵工業勞動者數二四〇、〇〇〇人、當該勞動者貨銀低減額一週四七五、〇〇〇磅、一人宛減額一週一磅十九志七片、坑業採石業勞動者數一、二九〇、〇〇〇人、同貨銀低減額一週二、五八八、〇〇〇磅、一人宛減額二磅、織物業勞動者一週減額十二志十一

し越へて一九二一年一月乃至三月の間其勢益々甚しく三月下旬に至りて色彩愈々濃厚となり炭業紛議は遂に四月一日に至りて全國炭坑夫の罷工を惹起し紛糾三箇月其間燃料の缺乏は國內一切の工業を癱瘓せしめ七月初旬炭業就労者以外失業を保證せられたる勞動者千百萬人中の一割九分は全く職を失ひ自餘は短業の厄に遭ひ製鐵工業葉鐵板工業陶器製造業等國內樞要工業舉て影響を蒙らざるものなく同年三月作業に從事せる銑鐵鎔鑄爐百九基、鐵工場百八十四箇所を算したるに、四月には鎔鑄爐十一基、鋼鐵工場二十四箇所に減じ、五月末に至りては鎔鑄爐の作業に從事せる者僅に一箇所を存せるのみ、而して罷工三箇月間鐵生產額の損失は一六、〇〇〇、〇〇〇磅乃至一八、〇〇〇、〇〇〇磅、當該工業就労者貨銀の損失約六、〇〇〇、〇〇〇磅資本の損失に至りては莫大なるものあるべし、同年中國內勞動紛議の爲浪費せる勞動損失日數は合計八六、〇〇〇、〇〇〇日にして算て前例を見ざるものなりと謂ふ、一般經濟界の萎靡沈滯が諸工業に及ぼす影響に至りては各國一律にして已むを得ずとするも國內炭業の如き基礎工業に於ける勞動紛議の結果自餘樞要產業の蒙る悪影響に至りては延て一國輸出貿易を減退せしむるのみならず時々同種外國品の輸入より國內市場迄も蠶食せらるゝに至りて思はざるの結果を招致すべし、同年英國鐵工業の蒙りたる惡結果は即ち如斯にして歐洲大陸產鐵鋼及製品が多量に輸入せられたるは這般爲替の關係與て力あること勿論斯の如きは常態に非ずとするも二箇月に涉る大罷工の爲鋼鐵製造の必要其他低廉なる外國產鐵鋼を要したこと素より怪むに足らず、七月罷工終了を告げたる以來各種工業多少復舊の觀ありたるも銑鐵生產の如きは輸入外國品に壓迫せられ爾來殆ど回復を見ざりしと云ふも過言に非ず、加ふるに輸入外國品の價格極めて低廉にして内國產品の生產を見るに至りしも猶價格の差異は以て之が輸入を防止するに足らず、國內製造者は其の對抗上値段の引下を斷行せざるに至り一時損失を顧みるの暇なかりしも生產費節減に關しては少からざる困難を見たるが如し、尤も當國鐵工業勞動者貨銀は概ねスライディング・スケール制によるが故に價格の低下と共に自ら貨銀低減せられ其貨銀下降率は本論中詳述せるが如く自餘主労工業就労者の夫れに比し甚しきものあり。

片、造船業十二志三片、運送業八志六片、而して毎週の貿易低減額は鐵坑業最著

しきものありたるに拘らず幸に同年製鐵工業労働者は何等の争議を唱へず組合幹

部は炭業罷工の状況に鑑み好況時代とは全く其態度を異にし寧ろ資本家と協力して産額の増加生産費の低下を計るを可とし極めて妥協的態度を保持せるは斯業の爲喜ぶべき現象なりき、労働者賃銀問題は生産費節減を助成し得たるが如し、其他燃料海運貨率、鐵道運貨率も同年半期中の引下を見たるも就中鐵道運賃の如きは這般引下の程度にては以て鐵工業の回復を促すに足らずとなし世論大に喧しきものあり、最近英國工業協會の代表者は鐵道會社に對し運賃引下の交渉をなしたるもの未だ具體的の結果を見ず。

抑々英國鐵工業は本來當該工業に権利要缺くべからざる燃料即ち石炭產地により圍繞せられ製鐵工場あれば必ず附近に炭坑の存する天與の恩恵を備へ製品の優良と價格の比較的低廉なるに因り今日世界に名聲を博したるも同年英國產物品の價格は其間に種々の事情纏綿すべしと雖、他國產品に比較して價格著しく高く内に減少し價格は前例なき暴落を現出し異常の衰弱を呈せり、若し夫れ工場の配置諸般の設備等に至りては依然舊態を持続し極めて保守的にして米獨等の改善進行せるものに及ばざること遠く只這般鐵工業の設立年を閱すること多く職工の知識技能蘊蓄深く加ふるに工場の數極めて多きと同時に夫々特長を有し利害の抵觸不振は即ち輸出貿易の消長に關し、輸出貿易の消長は國民經濟生活に重大なる關係を有す、之を以て同年萎靡沈靜せる輸出貿易の恢復に關しては現下英國上下を通じて研究努力に苦心しつゝあり。(完)

## 軍艦の古鐵材改鑄

廣瀬 大佐 談

戦後の歐米造船界の研究の途に在つた海軍造船大佐廣瀬瀧次氏は今回九州大學教授の内命を受け去月歸朝した、大佐曰はく「昨年五月渡歐して英國を振出しに獨・佛・伊・米を視察したが流石に船運國の英國でも造船界は大變手控へをやつて居り佛、伊等も亦より以上に緊縮状態にある、併し獨逸だけは仲々盛んに建造して居るが船體等は別に戦前と甚しく變つたとは見られない、只だ英國船の船室内の裝飾は紅葉とかチークとかの上等の木材を使用し其木目の風趣あるのを誇りとして居るが、獨逸船に至つては材料は甚だ粗末なものである從つて裝飾としては塗料を應用して盛り繪や彫刻のやうに見せて居るが伊、佛に至つては未だ天井等には繪畫を以て飾りとして居ると云ふ、三潮流がある、大體に於て最近の歐洲造船界は大型船と云ふよりも中型の貨物船が建造されつゝあるが之れは來るべき海運業活動に備へる意りだらう、世界石油田の大部分を掌握して居る英國では石炭石油の混合燃料を使用する船舶を建造する傾向あるが、石油に乏しい獨逸は依然として石炭燃料船が主で且つ工場等も英米の解放的なに反し秘密主義を探り見せることを喜ばない。

軍縮による軍艦の仕末に就いては各國共苦心して居るが、嘗て英國の第一回の軍縮處分の様子を見るに解體材料は全部シエフイールド鐵工場に古鐵として拂下げた、それが此所で再び商船用の鐵材に改鑄されるわけであるが、工場規模の大きさだけ此の藝術の出来るのが羨しい」云々。